

# 第4回 検定試験に関する実態調査 報告書

調査期間：2013年1月15日～2月8日

信頼と安心の検定を目指す



## 調査概況

毎年実施している資格・検定に関する実態調査。

第4回目である今回は、「教育機関側から見た資格・検定」というテーマで、高等教育機関(大学・大学院・短大・高専・専門学校)が資格・検定取得者に対して、どのような評価をしているか等を調査し、「教育機関から求められる検定」の指標づくりに資するものとします。

(第1回目は「検定実施団体の現状」、第2回目は「受験者に対しての実態調査」、第3回目は「企業に対しての実態調査」)

本結果は、報告書の形式で会員はじめ世間一般に公布し、民間資格・検定受験者への情報として、検定業務運営のガイドラインとして広く使用されることを目的とします。

○調査の結果、入学後の民間資格・検定については、[一般課程]で約2割、[専門課程]で約3割が必要と感じており、主な理由として在学時には「学習の助けになる」、進路指導時には、「就職に有利」と目的によって民間資格・検定を活用していることがわかりました。また、調査した学校の約2割で民間資格・検定を「単位取得に活用」していることがわかり、約半数の学校で「対策の特別授業の実施」や「指導教員らによるバックアップ体制」など、民間資格・検定を取得するための助成制度も活発に行われています。

○学校側からの民間資格・検定を評価する際のポイントについては、「実績があること」、「官公庁等の公的機関の後援」、「知名度が高い」が上位になっており、教育プログラムへの活用の際に、過去の実績等を重視する傾向にあります。今後[第三者評価]等新しい評価基準が求められていくのではないのでしょうか。

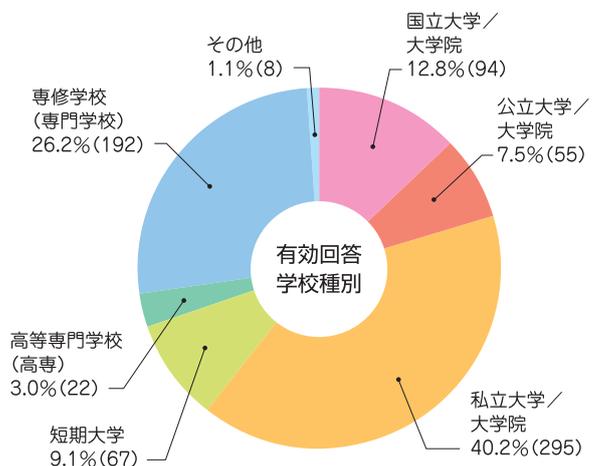
1. 調査対象 全国の高等教育機関(大学・大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校等) 計5,000校

2. 調査方法  
・郵送によるアンケート票送付・返信方式  
・インターネットアンケートサイト「アイリサーチ」のシステムを利用したWEBアンケート方式  
※回答者の利便性等を考慮し2通りの調査方法を併用

3. 調査期間 2013年1月15日(火)～2013年2月8日(金)

4. 有効回答数 733サンプル(郵送回収：545サンプル/WEB回収：188サンプル)

国立大学/大学院	94サンプル
公立大学/大学院	55サンプル
私立大学/大学院	295サンプル
短期大学	67サンプル
高等専門学校(高専)	22サンプル
専修学校(専門学校)	192サンプル
その他	8サンプル



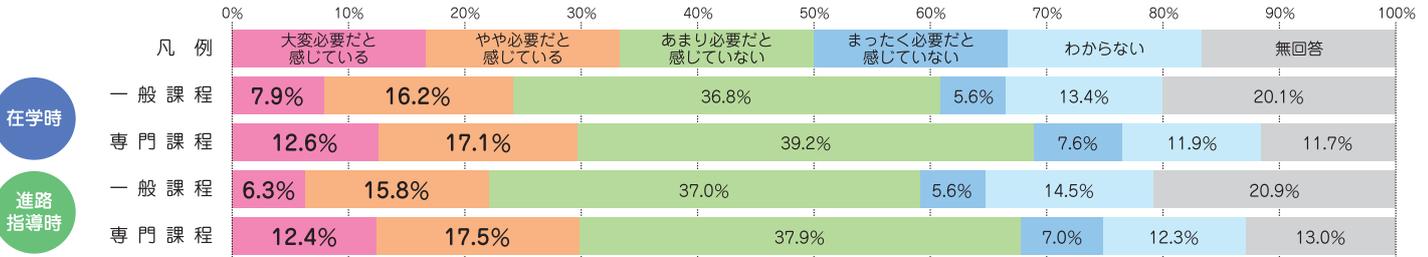
5. 調査委託機関 株式会社ネオマーケティング

(カッコ)内は実数

## 民間資格・検定の必要性

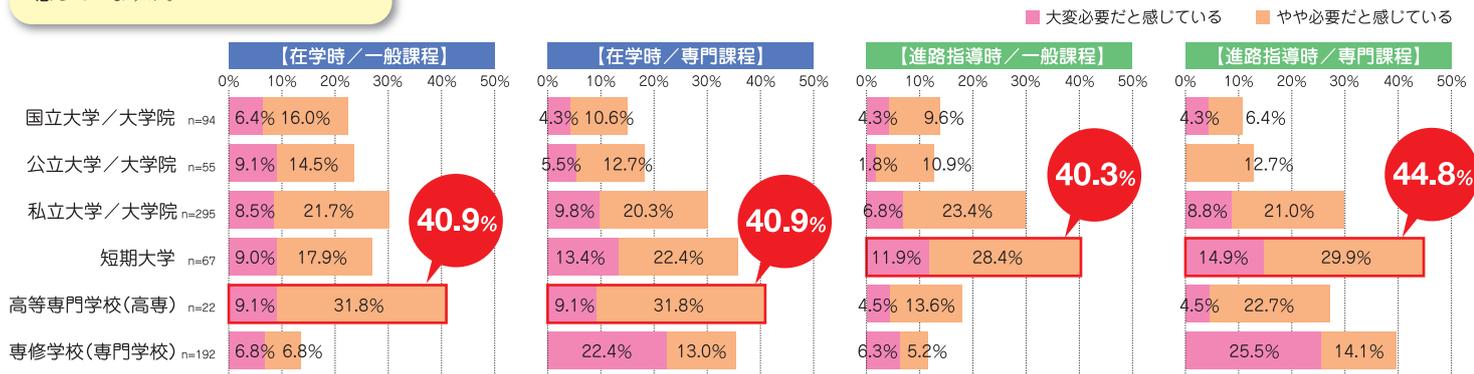
Q.1 在学時、進路指導時(進学、就職など)の際、貴校の一般・専門課程(教育プログラム上)において、民間資格・検定の必要性についてどのように感じていますか。

- ・入学後の民間資格・検定の必要性については、[一般課程]で2割程度、[専門課程]で3割程度必要性を感じられている
- ・[一般課程]にくらべ[専門課程]での必要度がやや高まる傾向にあるが、在学時、進路指導時ともに30%(大変必要+やや必要)となった
- ・[一般課程]では「わからない」「無回答」の率も高く、教育プログラム上での有用性について、判断が付きかねているとみることもできる



Q.2 在学時、進路指導時(進学、就職など)の際、貴校の一般・専門課程(教育プログラム上)において、民間資格・検定の必要性についてどのように感じていますか。

- ・学校種別では在学時における必要度が[高専]で高い傾向がみられ、4割を超える(大変必要+やや必要)回答率となった
- ・一方、進路指導時では[短期大学]が他校に比べ高くなっている
- ・進路指導時の専門課程においては[専修学校]で「大変必要」とする率が26%と極めて高い



## 教育プログラム別内容と理由／在学時

Q.3 貴校にとって、「在学時の一般課程」、「在学時の専門課程」でもっとも必要に感じている民間資格・検定とは何ですか。

- ・すべての課程において必要とされる民間資格・検定では「英語系」検定が多くあげられ、英語習得へ力を入れていることがうかがえる
- ・専門課程においては、ジャンルによって特徴的な民間資格・検定があげられるが、在学時では「学習の助けになる」ことが重視される傾向にあり、基礎的知識の習得や能力・実力の把握のために用いられている

【一般課程において必要な検定】 n=177

検定名	必要とする主な理由
TOEIC	グローバル化に対応 英語力を適正に測定 語学力の向上、学習意欲の向上
TOEFL	留学の条件 留学を促進 英語の基本的理解力向上
実用英語技能検定	英語の基礎力の習得 信頼性のある検定 英語必修科目の単位認定基準
漢字検定	文章理解・作能力の養成 基本的リテラシー
ワープロ検定・情報処理MOS等 IT系検定	実務的な即戦力 あらゆる職種に有用 基礎的能力

【専門課程において必要な検定】 n=217

学科	検定名	必要とする主な理由
英語・外国語系	実用英語技能検定 TOEIC TOEFL	必修科目履修条件 語学力の指標 留学のための能力判定 コミュニケーション能力の向上
情報・IT系	情報処理技術者試験 ワープロ、表計算検定 MOS プログラミング言語系検定	専門知識の習得 職種における必須項目 社会での即戦力
医療・介護系	医療事務検定 医療、スポーツ分野、介護分野資格	現場で役立つ知識の習得
経営・商学系	簿記検定 秘書検定	基礎的能力 専門課程の基礎知識
法科・法律系	法学検定	法律に関する基礎知識
建築系	建築CAD検定、一般建築士 インテリアコーディネーター	技術者としてのスキルアップ 仕事に有用
造形・デザイン系	色彩検定	デザインに必須

# 教育プログラム別内容と理由／進路指導時

Q.4 貴校にとって、「進路指導時の一般課程」、「進路指導時の専門課程」でもっとも必要に感じている民間資格・検定とは何ですか。

- ・進路指導時でも「英語系」検定が多く必要とされており、就職指導においても英語力の必要性が高いことが確認された
- ・一般課程においては、「秘書検定」「日本語検定」が社会人として身につけてほしい力を向上させるものとして位置付けている
- ・専門課程において在学時同様、ジャンルによって特徴的なものがあげられるが、進路指導時では「就職先の意向」や「就職に有利」といった理由が多くあげられ、在学時に推奨する検定と背景に違いが生じている

【一般課程において必要な検定】 n=162

検定名	必要とする主な理由
実用英語技能検定 TOEIC TOEFL フランス語検定 中国語検定	グローバル人材育成 進路選択の幅が広がる 企業、団体等へのアピール 就職に有利
秘書検定	社会人の常識、ビジネスマナー
日本語検定	自信・信頼・信用
ビジネス文書検定	社会での即戦力

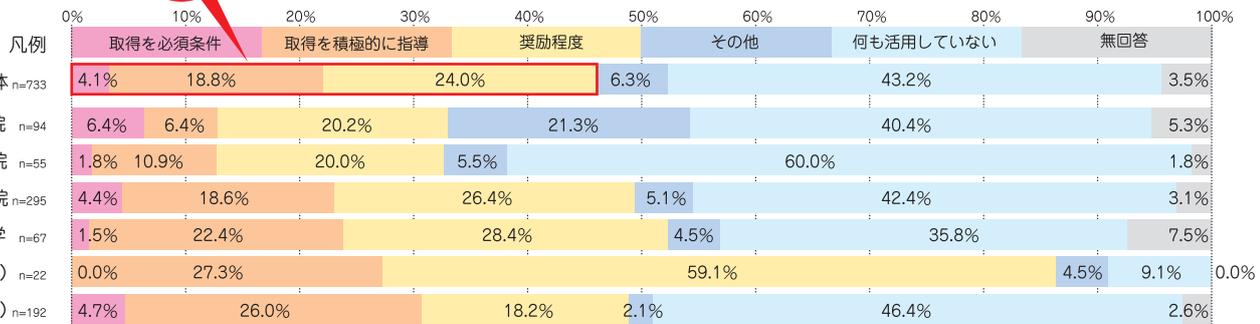
【専門課程において必要な検定】 n=219

学科	検定名	必要とする主な理由
英語・外国語系	語学系 ビジネス能力検定	多くの企業が測定基準に採用 社会人として必要な能力
情報・IT系	情報処理技術者試験 MOS プログラミング言語系検定	採用条件となることが多い 就職採用時に有利
医療・介護系	診療情報管理 福祉環境コーディネーター 医療事務検定	職務上必要、病院勤務に有利
経営・商学系	ファイナンシャルプランナー 経済学能力検定試験 日商簿記検定・販売士	金融系就職に有利 経済学の基本的能力の証明 実践的能力修得 流通、販売、営業職に有利
法科・法律系	法学検定	学習の習熟度を測定、証明
教育系	レクリエーション・インストラクター 漢字検定	現場で役立つ

## 単位取得への活用

Q.5 貴校において、民間資格・検定の取得を、学生の単位取得(または科目修得)に活用されていますか。(お答えは1つ)

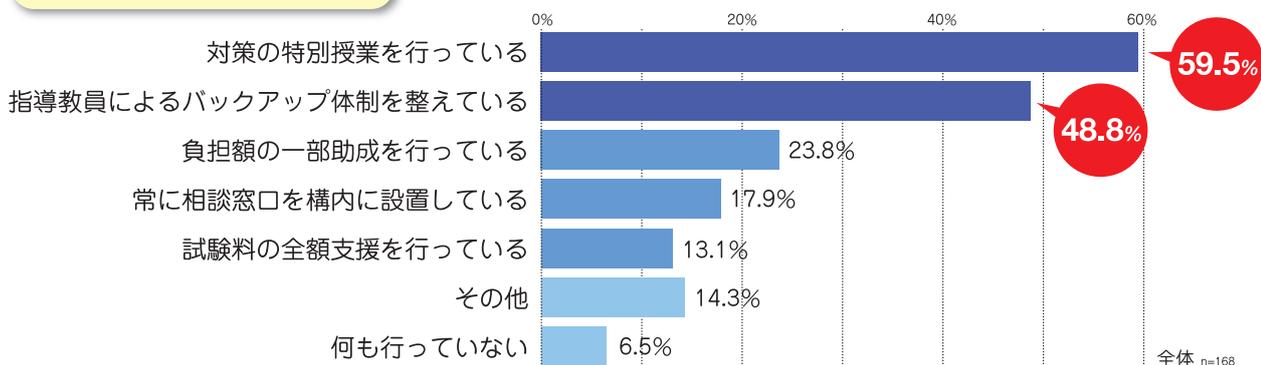
- ・単位取得への活用状況では、「取得を必須条件」は4%と低いが、「積極的に指導」で19%、「奨励」で24%と、半数弱が活用に前向きな意向となっている
- ・[高専]では、「取得を必須条件」は0%であるが「積極的に指導」「奨励」で8割を超え、他に比べ極めて高くなっている
- ・入試採用検定の種別で見ると、民間資格・検定を採用している学校に比べ、[設けていない/考えていない]学校での単位取得への活用率が低くなっており、民間資格・検定に対する捉え方があらわれるものになった



## 助成制度

Q.6 Q5で「取得を必須条件としている」、「取得を積極的に指導している」とお答えの方にお尋ねします。貴校が民間資格・検定を支援するに当たっての助成制度等の取り組みをしていますか。(お答えはいくつでも)

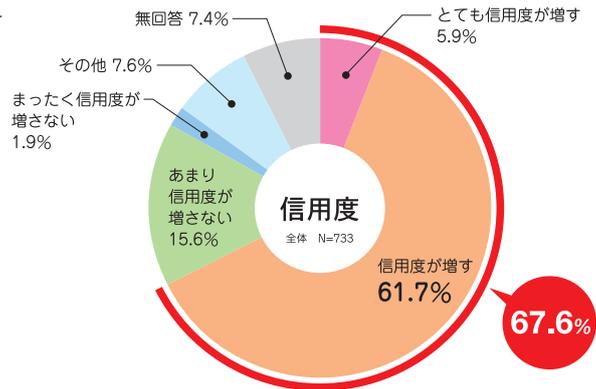
- ・資格・検定の取得に対する支援の状況は、「対策の特別授業の実施」が60%、次いで「指導教員らによるバックアップ体制」(49%)となっている。
- ・負担額、試験料の金銭的サポートも合わせて4割弱の学校で実施されている(負担額の一部助成24%、試験料の全額支援13%)



## 官公庁後援による信用度

Q.7 今後貴校が、民間資格・検定を活用し、奨励する場合の判断基準とする際に、官公庁などが後援している民間資格・検定に対して、信用度が増すと思いますか。(お答えは1つ)

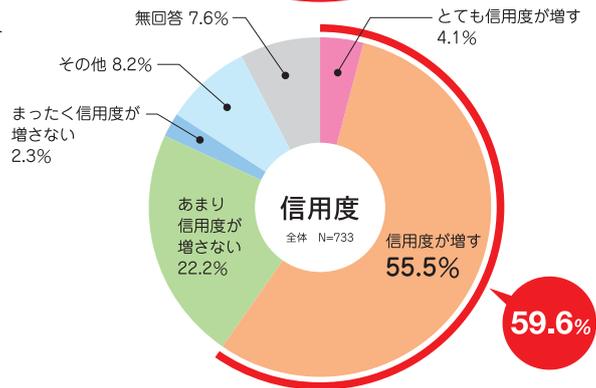
- ・官公庁などの後援により信用度が増すか、との質問に対しては、全体で約7割がポジティブな評価となった(とても増す+増す、68%)



## 第三者評価機関による信用度

Q.8 今後貴校が、民間資格・検定を活用し、奨励する場合の判断基準とする際に、検定試験の評価を行う第三者評価機関によって認証される民間資格・検定に対して、信用度が増すと思いますか。(お答えは1つ)

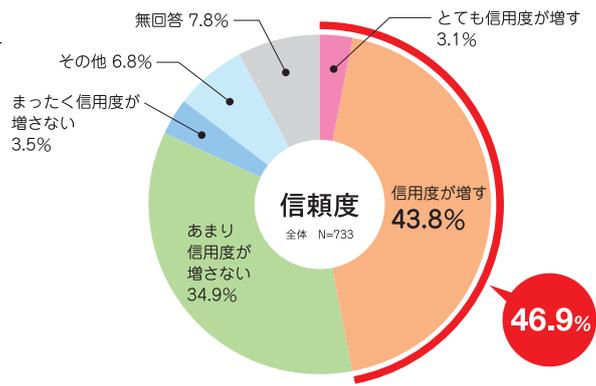
- ・第三者評価機関による認証については、先の官公庁後援に比べると若干信用度が下がる傾向にあるが、全体で6割が「信用が増す(とても増す+増す)」としている



## 検定実施団体の自己評価への信頼度

Q.9 今後貴校が、民間資格・検定を活用し、奨励する場合の判断基準とする際に、検定実施団体が自ら自己評価(点検)をおこない、その結果を公開する民間資格・検定に対しては、信用度が増すと思いますか。(お答えは1つ)

- ・検定実施団体の自己評価に対しては、半数弱が「信用が増す(とても増す+増す、47%)」としている



## 検定・資格活用時の判断基準

Q.10 貴校にとって、民間資格・検定を活用、奨励する際に、判断する基準は何ですか。(お答えはいくつでも)

- ・資格・検定における重視ポイントでは、「実績があること」が58%と最も高く、次いで「官公庁等の公的機関の後援」49%、「知名度が高い」34%と続く
- ・学校種別での傾向は、「短期大学」で「実績があること」(67%)、「知名度が高い」(40%)が他に比べ高くなっている
- ・[高専]では「官公庁等の公的機関の後援」(64%)、[専修学校]では「業界団体からの薦め」(42%)が他に比べ高い

	全体 n=733	国立大学 大学院 n=94	公立大学 大学院 n=55	私立大学 大学院 n=295	短期大学 n=67	高等専門学校 (高専) n=22	専修学校 (専門学校) n=192
実績があること	58.1%	46.8%	61.8%	65.8%	67.2%	50.0%	49.0%
官公庁等の公的機関が後援していること	48.6%	35.1%	43.6%	53.6%	46.3%	63.6%	48.4%
知名度が高いこと	34.4%	19.1%	29.1%	38.3%	40.3%	18.2%	37.5%
検定試験を評価する第三者評価機関によって認証されていること	32.1%	29.8%	25.5%	38.0%	28.4%	27.3%	29.2%
業界団体(公認の協会など)からの薦めがあること	31.2%	12.8%	25.5%	31.9%	32.8%	22.7%	42.2%
各種情報公開がされていること	30.6%	29.8%	23.6%	34.9%	31.3%	18.2%	28.6%
受験者数が多いこと	24.7%	23.4%	30.9%	28.5%	25.4%	13.6%	19.3%
実施団体が自己評価を行いその結果を公開していること	14.7%	12.8%	10.9%	19.7%	14.9%	4.5%	10.9%
難易度が高いこと	9.3%	7.4%	10.9%	10.8%	9.0%	9.1%	7.8%
受験料が安いこと	8.6%	5.3%	3.6%	6.4%	10.4%	9.1%	13.5%
希少価値があること	2.9%	-	-	4.1%	1.5%	-	4.2%
今流行の検定であること	2.2%	-	-	2.7%	4.5%	-	21%
その他	17.1%	19.1%	16.4%	14.2%	11.9%	31.8%	21.4%
無回答	9.5%	19.1%	10.9%	7.5%	9.0%	-	7.8%



特定非営利活動法人

全国検定振興機構

〒162-0831 東京都新宿区横寺町55番地 TEL.03-3266-6160

全検ウェブサイト <http://www.zenken.or.jp/>